

武蔵野市における市民と「農」との関わり

武蔵野市長 土屋 正忠

【武蔵野市の概要】

広がり：東西 6.4 k m 南北 3.1 k m

面積：10.73 k m²（農地は約 36 ヘクタール）

人口：131,149 人 世帯数：66,747 世帯（平成 16 年 4 月 1 日現在）

全国第 2 位の人口過密都市

【市内における「農」との関わり】

昭和 62 年より「フレッシュサラダ作戦」という施策を展開している。これは市長に就任してすぐに検討を行った事項であるが、市内の農地で生産される農産物を地元の消費者に還元させるための仕組みである。この特徴は、仕組みの中に農業者、消費者および流通業者を入れたところにある。農業者は一定の種類 of 作物を作り、それを武蔵野市から支給された段ボールで市場に卸す。地元の流通業者は必ずそれを買取するという仕組みである。消費者と農業者が手をつなぎ、流通業者がその橋渡しをするといったコミュニティを形成している。

しかしこれらも市内に 36 ヘクタールしかない農地では限界がある。1 番盛んに行っているのは庭先販売である。もちろん「市民農園」もある。市民農園は市内に 6 箇所、539 区画、9,785 m²あり、応募倍率は常に 2 倍以上と人気が高い。以上が市内における「農」との関わり合いであるが、前述したように 36 ヘクタールしかない農地では当然ながら限界がある。

【都市と農村との交流】

そこで様々な仕組みを通じて都市と農村との交流を心がけている。

その第一は「セカンドスクール」である。この事業は、武蔵野市立小学校 5 年生・中学校 1 年生が、普段の学校生活では体験しにくい学習を、授業の一部として自然豊かな農山漁村に長期滞在して行うものである。平成 15 年度は長野県飯山市など 6 県 10 市町村で 1,493 名の児童・生



徒が体験学習を行っている。

さらに平成 15 年度からは、小学校 4 年生を対象としたプレセカンドスクールを 4 校にて試行実施している（計 216 名参加）。

平成 15 年度セカンドスクール実施状況

| 小学校 4 年生 | 参加人数 | 小学校 5 年生 | 参加人数 | 中学校 1 年生 | 参加人数 |
|----------|-------|----------|-------|----------|-------|
| 長野県飯山市 | 5 1 | 長野県飯山市 | 5 3 5 | 長野県大町市 | 1 1 7 |
| 群馬県片品村 | 3 6 | 富山県利賀村 | 6 5 | 長野県飯田市 | 1 6 0 |
| 静岡県富士宮市 | 6 7 | 群馬県川場村 | 5 6 | 長野県豊科町 | 1 7 8 |
| 東京都檜原村 | 6 2 | 千葉県銚子市 | 6 0 | 長野県白馬村 | 1 1 5 |
| | | 山形県遊佐町 | 1 2 7 | 新潟県松之山町 | 8 0 |
| 合 計 | 2 1 6 | 合 計 | 8 4 3 | 合 計 | 6 5 0 |

第二は家族単位での農山漁村とのふれあいである。平成 14 年度より新潟県小国町で「親子棚田体験」を実施、平成 15 年度には鳥取県の片山知事と協定を結び、50 組 200 人の家族が自然や生産活動を体験する「家族ふれあい自然体験」を実施している。今年はさらに NHK 朝の連続ドラマが縁で宮城県仙台市との交流を行うとともに、夏には岩手県遠野市とも交流する予定である。



小国町「親子棚田体験」

【農業の第 5 次産業化】

最後に農業の第 5 次産業化についてふれておきたい。私は、従来の第 3 次産業までに加え、情報産業を第 4 次産業ととらえ、農業を第 5 次産業ともとらえている。この第 5 次産業とは、農業を通して人々の魂を休養し、回復するような、癒し、再生、リフレッシュ、休養などの産業だと思う。



鳥取県「家族ふれあい自然体験」